

☆化成協、岡本会長『信頼性向上に注力、保安対策を強化』  
化成品工業協会は8日、都内で新年賀詞交歓会を開催し、関係者約二百八十名が出席した。岡本敬彦会長（住友化学専務）は冒頭の挨拶で『円高が是正されたことに加え、株価の上昇も鮮明になるなど、日本経済は全体的に回復基調が見られている。今年は消費税増税の問題はあるが、引き続き緩やかな回復を維持することが想定されており、化成品業界もこうした追い風に乘って、各事業の回復、改善を図っていきたい』と語った。また、同協会では、国内外の法規制情報の発信、人材育成、保安・安全対策などを重点施策に掲げ、各分野で積極的な取り組みを推進。日米欧のみならず、中国、韓国、台湾、インドなどのアジア諸国においても化学品の安全性に関する法整備が一段と進むことが想定される中で、『国内外の法規制などに関する情報発信プログラムをさらに充実させ、様々な工夫を凝らしながら、会員各社が必要とする情報を積極的に発信していきたい』（岡本会長）との方針を示した。また、会員各社の社内教育を補完することを目的に、二〇〇七年からスタートした人材育成プログラムについては、これまで合計約四千人が受講し、昨年は会員企業の半数にあたる六十社が参加。今年も内容を充実させながら、業界の人材育成に貢献していく方針だ。さらに、同協会では保安・安全対策として、『保安力向上プログラム』をスタート。『現在、十五社の参加を得てワーキンググループを設置し、事故事例や安全対策の紹介と、意見交換などを行っている』（同）とし、同プログラムを通じて情報の共有化により、各社の保安力向上につながることを期待される。『化学産業にとって、事故を起こすことなく安全に操業することが地域、そして社会における信頼性の向上につながるため、当協会のプログラムを積極的に活用していただき、業界の信頼性向上に注力していきたい』（同）とし、保安・安全対策を一段と強化していく方針が示された。

☆旭化成、吉野彰フェローが全米技術アカデミーから表彰  
旭化成は8日、旭化成フェローの吉野彰氏が全米技術アカデミーから「小型で軽量のモバイル電子機器を可能にしたリチウムイオン二次電池（LIB）の設計」を称えられ、〇一四年「Charles Stark Draper Prize」（チャールズ・スターク・ドレイパー賞）を受賞することが決定した、と発表した。同賞は、全米技術アカデミーから工学の発展に貢献した人物に授与され、工学分野のノーベル賞とも呼ばれている。吉野フェローは、負極にカーボン、正極にLiCoO<sub>2</sub>（コバルト酸リチウム）を使用するこ